

柳田雑記（20）

DVDで「哀愁」を観た

2018.5.27 柳田 健



ビビアン・リーがなぜかくも重用されるのかわかる気がした。

彼女の顔の表情は抜群だ。

第一次世界大戦下のロンドンで踊り子のヴィヴィアン・リーと英軍将校のロバートは偶然知りあう。

しかし出世した男の戦死を新聞で知る。絶望した女はついに娼婦に身を落とす。

戦争が終わり、帰還する兵士の中に生きた男と出会う。自分のことを言えないまま、イギリス貴族の男のところを逃げ出しウオーター・ブリッジ上で車に飛び込み自殺をする。

第2次大戦がはじまり、出世する男はウオーター・ブリッジで彼女の悲しい運命を思い出す。

そんな運命に置かれた女の悲しい表情をビビアン・リーは見事に表現している。